

令和7年

# 岡山県の交通事故

## 交通事故発生状況

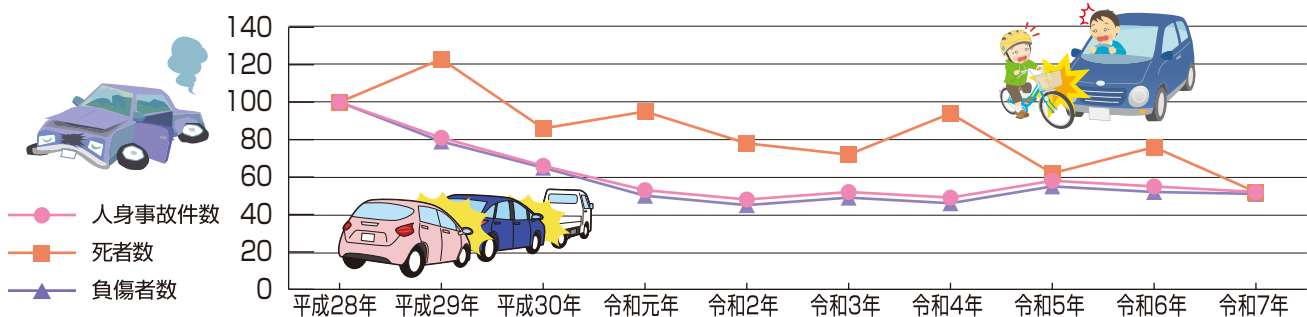
区分	総事故 件数	人身事故				物損事故 件数
		発生件数	うち死亡事故		負傷者数	
			件数	死者数		
令和7年	51,423	4,681	41	41	5,383	46,742
令和6年	50,282	4,869	58	60	5,489	45,413
増減数	1,141	-188	-17	-19	-106	1,329
増減率	2.3	-3.9	-29.3	-31.7	-1.9	2.9

増減は、前年との対比(以下同じ)

## 月別発生状況(死者数)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和7年	3	3	5	4	2	1	2	5	6	4	2	4	41
令和6年	3	6	1	5	5	1	5	7	7	6	7	7	60
増減数	0	-3	4	-1	-3	0	-3	-2	-1	-2	-5	-3	-19

## 死傷者数・人身事故件数の推移(指数)



区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
人身事故件数	8,930	7,220	5,902	4,690	4,288	4,683	4,348	5,161	4,869	4,681
指数	100	81	66	53	48	52	49	58	55	52
死者数	79	97	68	75	62	57	74	49	60	41
指数	100	123	86	95	78	72	94	62	76	52
負傷者数	10,654	8,465	6,873	5,315	4,840	5,239	4,855	5,816	5,489	5,383
指数	100	79	65	50	45	49	46	55	52	51

# 飲酒運転による人身事故

## 発生状況

区分	人身事故件数	死者数	負傷者数	負傷者数	
				重傷	軽傷
令和7年	42	1	58	3	55
令和6年	47	6	53	7	46
増減数	-5	-5	5	-4	9
増減率	-10.6	-83.3	9.4	-57.1	19.6

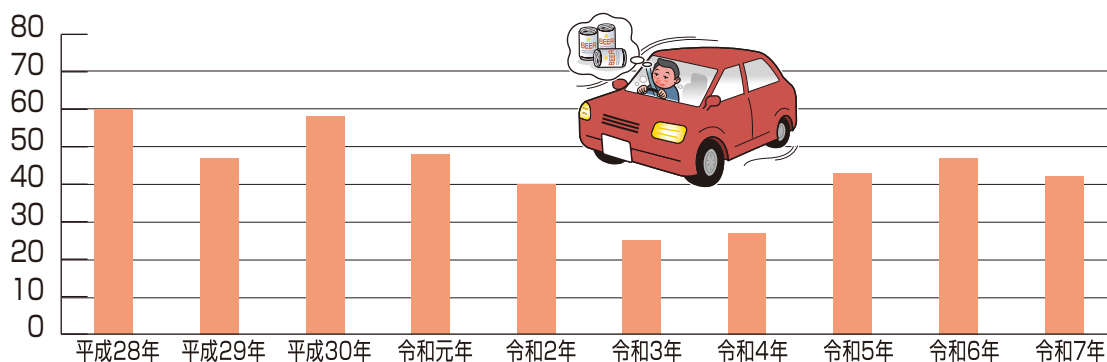
※ 件数は原付以上の第1当事者の飲酒運転(酒酔い、酒気帯び運転)による事故件数、死傷者数はその事故による死傷者数をいう。

● 飲酒運転による人身事故件数及び死者数は減少したが、負傷者数は増加した。

## 月別(件数)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和7年	3	5	6	4	5	2	0	2	0	4	4	7	42
令和6年	4	2	3	3	6	7	3	2	4	2	4	7	47
増減数	-1	3	3	1	-1	-5	-3	0	-4	2	0	0	-5

## 年別推移(件数)



区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
件数	60(2)	47(2)	58(5)	48(2)	40(3)	25(1)	27(0)	43(3)	47(5)	42(1)

※( )内は、死亡事故の件数を内数で示す。

● 飲酒運転による事故は令和4年から増加傾向にあったが、令和7年は減少した。

# ながらスマホによる人身事故

## 発生状況

区分	人身事故件数	死者数	負傷者数	負傷者数	
				重傷	軽傷
令和7年	30 (7)	1 (0)	39 (7)	7 (1)	32 (6)
令和6年	31 (7)	0 (0)	39 (7)	6 (4)	33 (3)
増減数	-1 (0)	1 (-)	0 (0)	1 (-3)	-1 (3)
増減率	-3.2 (0.0)	0.0 (-)	0.0 (0.0)	16.7 (-75.0)	-3.0 (100.0)

※( )内は、自転車乗用中の使用を内数で示す。

# 死亡事故の分析

## 死亡事故の主な特徴

- 交通事故死者は41人(前年比-19人)で、統計開始以降、過去最少
- 車両単独等一方的過失の事故が約5割
- 四輪乗車中の死者17人のうち、9人がシートベルト非着用
- 歩行者が死亡した事故11件のうち、10件が薄暮・夜間時間帯に発生(夜光反射材を着用していたのは1割)

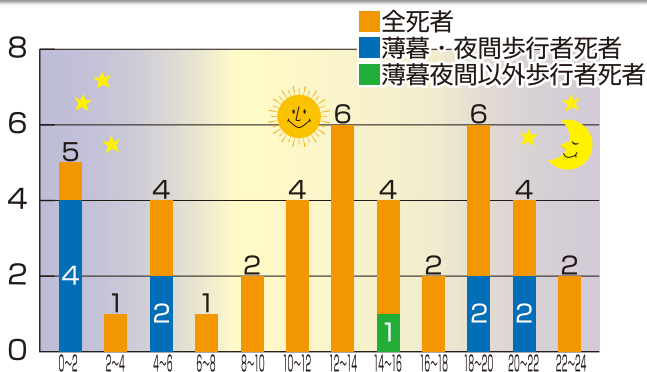
## 全国での位置づけ

区分	全国	中国地方					合計
		岡山	広島	山口	島根	鳥取	
死者数	2,547	41	58	31	17	17	164
増減数	-116	-19	-10	-20	8	2	-39
人口10万人当たり	2.06	2.24	2.14	2.42	2.65	3.20	-
全国ベスト順位		16	13	22	27	37	

● 岡山県の人口10万人当たりの死者数は2.24人で全国ベスト16位

## 1 いつ

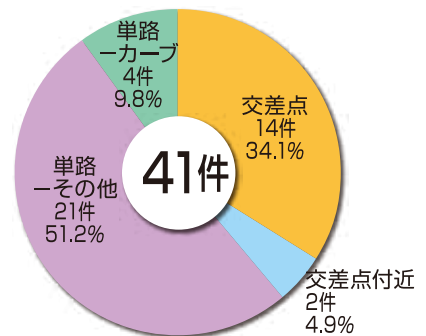
### 時間帯別(死者数)



● 交通事故死者は、12~14時、18時~20時が多い。

## 2 どこで

### 道路形状別(件数)

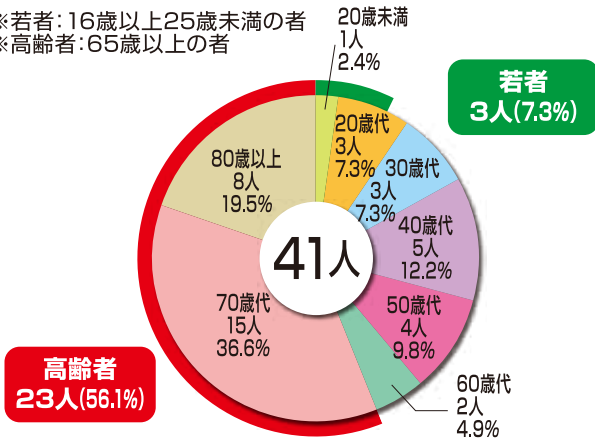


● 単路での死亡事故が全体の6割以上を占める。

## 3 だれが

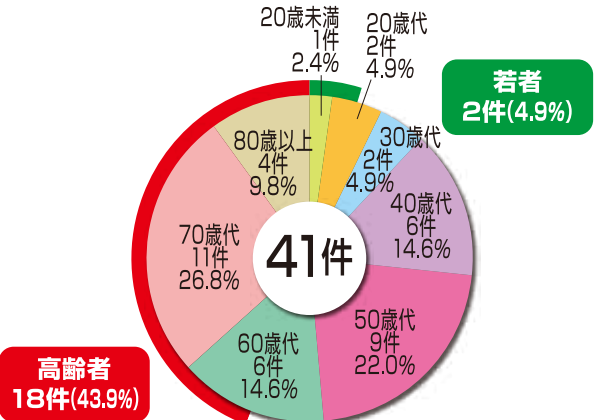
### 死者の年齢層別(死者数)

※若者:16歳以上25歳未満の者  
※高齢者:65歳以上の者



● 70歳代が最も多い。

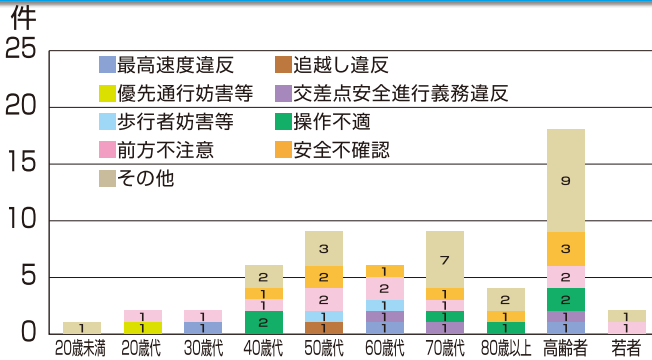
### 第1当事者の年齢層別(件数)



● 70歳代が最も多い。

## 4 どんな原因で

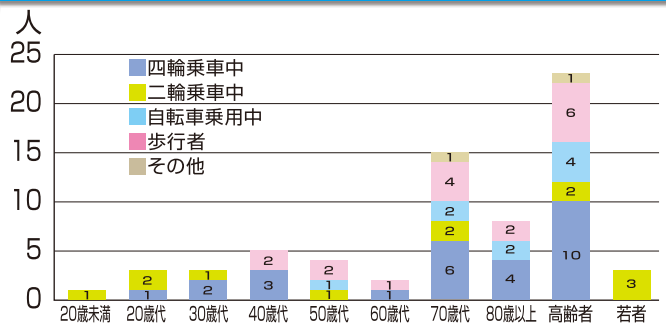
### 第1当事者の違反別・年齢層別(件数)



●前方不注意による事故が最も多い。

## 5 どのように

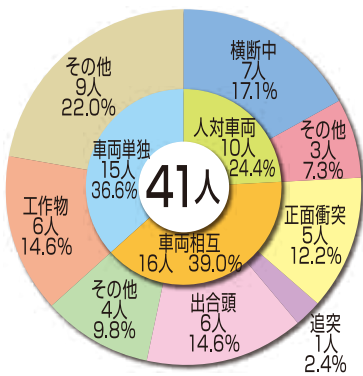
### 状態別・年齢層別(死者数)



●当事者別では、四輪乗車中の死者が最も多く、全体の約4割を占める。

## 6 どんな事故で

### 事故類型別(死者数)



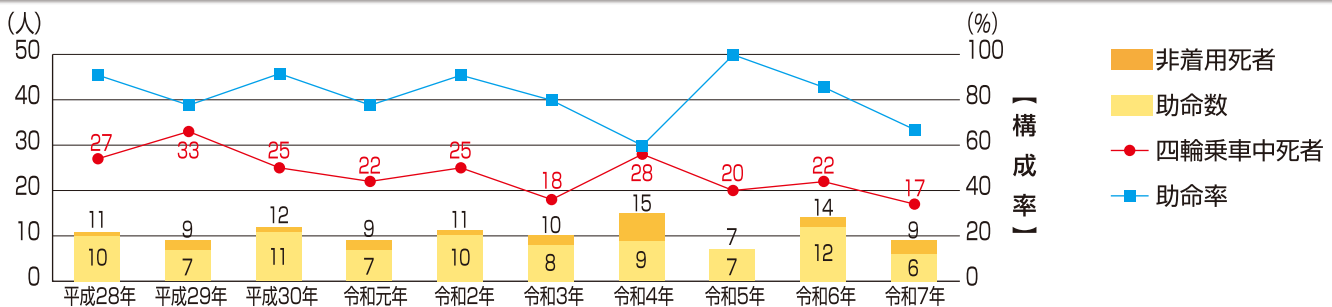
- 死者の約半数は、車両単独、正面衝突及び追突といった一方的過失の事故によるもの。
- 人対車両の事故による死者のうち、薄暮・夜間時間帯の死者は9人(構成率 90.0%)

#### 事故防止のポイント

- 薄暮・夜間時間帯は、車両を運転する際に、ハイビームを活用しましょう!

## 7 シートベルトは

### 四輪乗車中の死者とシートベルト着用状況



- 四輪乗車中死者17人のうち9人がシートベルト非着用
- シートベルト非着用者9人のうち、6人がシートベルトを着用していたら助かったと考えられる。(助命率 66.7%)

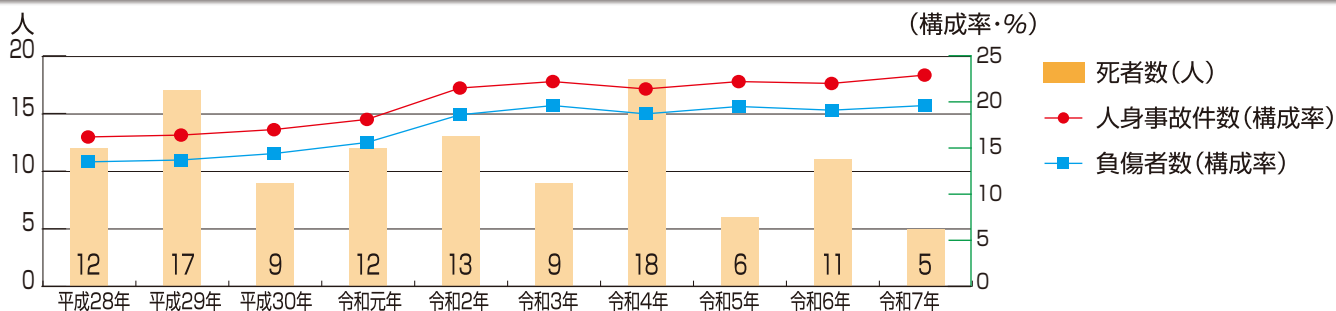
区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
シートベルト着用率 <sup>※1</sup>	98.8	98.4	98.2	98.6	98.5	99.1	98.6	99.0	99.0	99.3
四輪乗車中死者 <sup>※2</sup>	27	33	25	22	25	18	28	20	22	17
着用死者	16	22	10	10	13	6	13	13	8	8
着用率	59.3	66.7	40.0	45.5	52.0	33.3	46.4	65.0	36.4	47.1
非着用死者	11	9	12	9	11	10	15	7	14	9
助命数	10	7	11	7	10	8	9	7	12	6
助命率	90.9	77.8	91.7	77.8	90.9	80.0	60.0	100.0	85.7	66.7
不明	0	2	3	3	1	2	0	0	0	0

※1 一般道路の運転者。警察庁とJAFの合同調査による。

※2 運転者及び同乗者を含み、シートベルト及びチャイルドシートを含む。

# 自転車の事故

## ■ 自転車に関する事故の推移

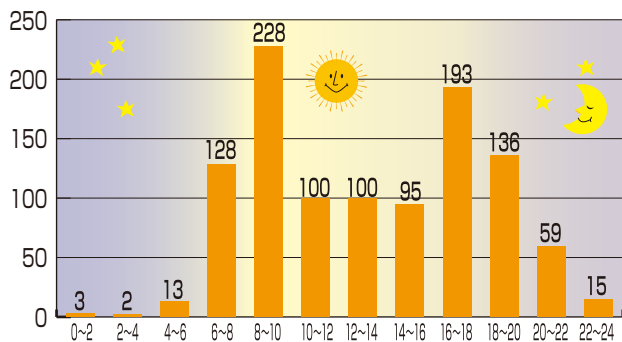


区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
人身事故件数	1,447	1,182	1,003	850	923	1,041	929	1,146	1,069	1,072
構成率	16.2	16.4	17.0	18.1	21.5	22.2	21.4	22.2	22.0	22.9
死者数	12	17	9	12	13	9	18	6	11	5
構成率	15.2	17.5	13.2	16.0	21.0	15.8	24.3	12.2	18.3	12.2
負傷者数	1,434	1,163	988	830	901	1,028	908	1,134	1,048	1,054
構成率	13.5	13.7	14.4	15.6	18.6	19.6	18.7	19.5	19.1	19.6

※件数は自転車に関係した事故件数、死者数は自身の被害をいう。※構成率は、全人身事故及び全死者に占める割合をいう。

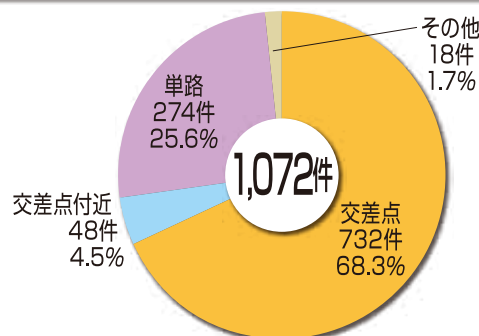
●全人身事故に占める、自転車事故の割合は増加傾向にある。

## ■ 時間別 (件数)



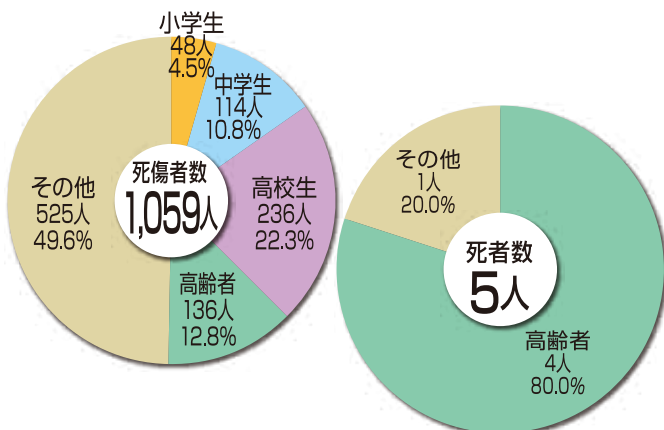
●8~10時、16~18時の通勤・通学時間帯に多発

## ■ 道路形状別 (件数)



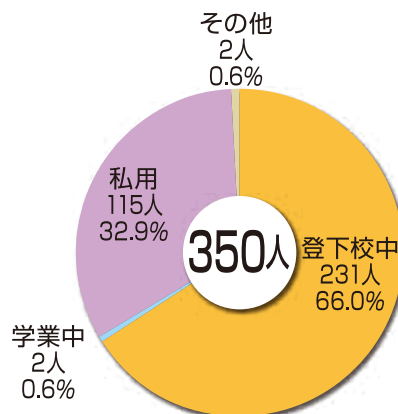
●交差点及びその付近での事故が、全体の7割以上を占める。

## ■ 年齢層別 (死傷者数・死者数)



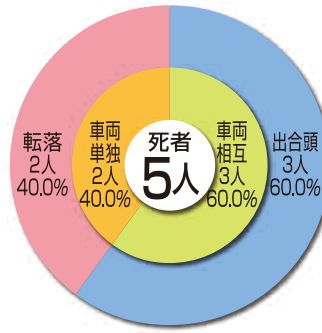
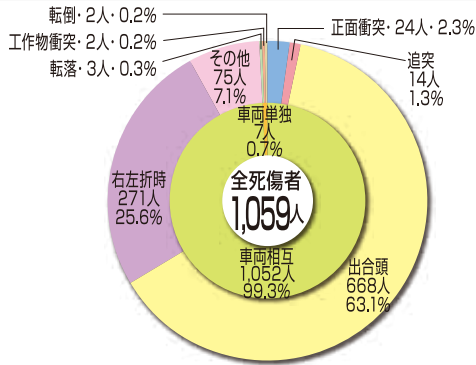
●死者数は、高齢者が8割を占める。負傷者数については、中高生が3割以上を占める。

## ■ 通行目的別負傷者数 (中高生)



●登下校中の負傷が6割以上を占める。

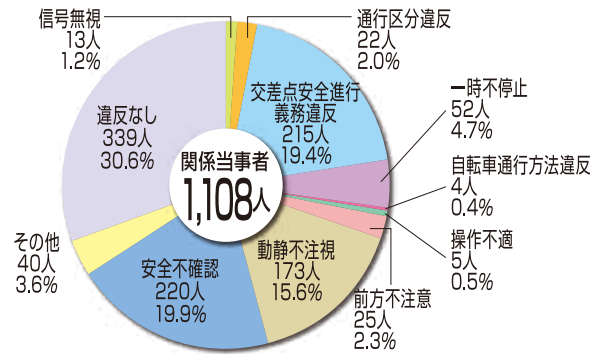
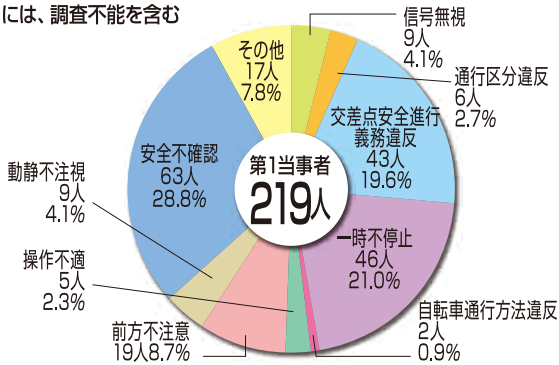
## ■ 事故類型別（死傷者数・死者数）



- 自転車乗用中死者5人のうち2人が用水路等への転落事故
- 死亡事故では、単独事故の割合が高いが、全人身事故では、車両相互の事故が99%を占める。

## ■ 違反別当事者数

※「その他」には、調査不能を含む



- 1当は安全不確認が最も多く、次に一時不停止が多い。
- 自転車の関係（第1・2）当事者の約7割に何らかの違反がある。

## ■ 自転車乗用中死傷者のヘルメット着用状況（年代別）

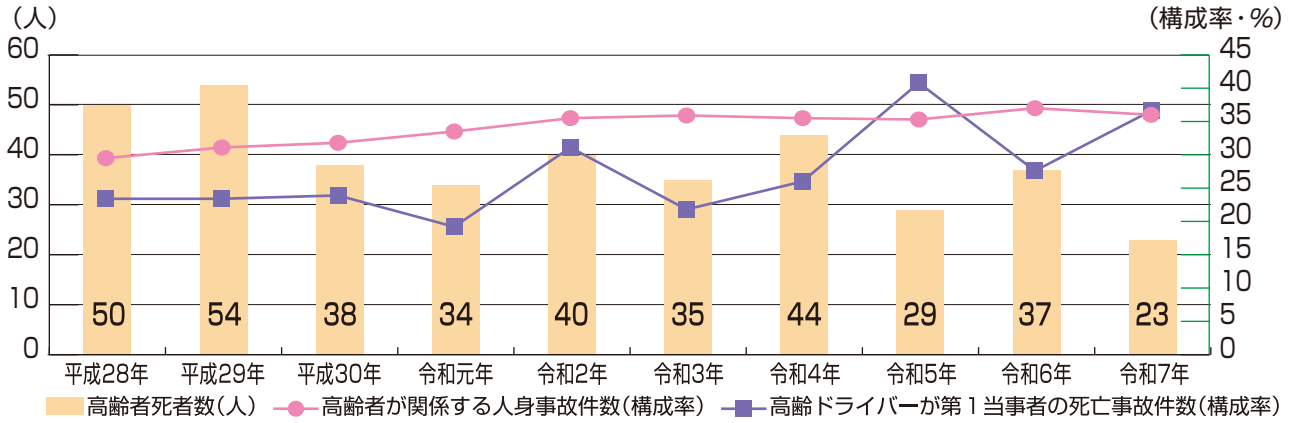
	平成28年			平成29年			平成30年			令和元年			令和2年		
	着用者	全死傷者	着用率	着用者	全死傷者	着用率	着用者	全死傷者	着用率	着用者	全死傷者	着用率	着用者	全死傷者	着用率
小学生	41	84	48.8%	31	61	50.8%	21	45	46.7%	19	46	41.3%	26	47	55.3%
中学生	55	141	39.0%	63	115	54.8%	49	100	49.0%	57	87	65.5%	59	104	56.7%
高校生	4	227	1.8%	3	221	1.4%	2	161	1.2%	1	148	0.7%	3	144	2.1%
大学生	5	90	5.6%	2	76	2.6%	1	59	1.7%	2	48	4.2%	1	38	2.6%
高齢者	6	260	2.3%	1	213	0.5%	5	204	2.5%	4	158	2.5%	7	176	4.0%
全体	154	1,446	10.7%	138	1,180	11.7%	115	997	11.5%	103	842	12.2%	128	914	14.0%

	令和3年			令和4年			令和5年			令和6年			令和7年		
	着用者	全死傷者	着用率	着用者	全死傷者	着用率	着用者	全死傷者	着用率	着用者	全死傷者	着用率	着用者	全死傷者	着用率
小学生	27	49	55.1%	21	38	55.3%	28	53	52.8%	29	52	55.8%	23	48	47.9%
中学生	51	96	53.1%	61	97	62.9%	72	128	56.3%	80	120	66.7%	65	114	57.0%
高校生	2	164	1.2%	5	170	2.9%	12	198	6.1%	13	191	6.8%	7	236	3.0%
大学生	3	63	4.8%	2	50	4.0%	0	76	0.0%	1	81	1.2%	2	75	2.7%
高齢者	5	198	2.5%	7	179	3.9%	17	173	9.8%	22	165	13.3%	27	136	19.9%
全体	132	1,037	12.7%	128	926	13.8%	206	1,140	18.1%	213	1,059	20.1%	178	1,059	16.8%

- 令和元年以降、着用率は上昇傾向にあったが、令和7年は低下した。
- 年代別にみると、高校生及び大学生の着用率が低い。

# 高齢者の事故

## ■高齢者の交通事故の推移



区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
高齢者が関係する人身事故件数	2,630	2,246	1,875	1,571	1,524	1,681	1,543	1,820	1,803	1,687
構成率	29.5	31.1	31.8	33.5	35.5	35.9	35.5	35.3	37.0	36.0
高齢者の死者数	50	54	38	34	40	35	44	29	37	23
構成率	63.3	55.7	55.9	45.3	64.5	61.4	59.5	59.2	61.7	56.1
高齢ドライバーが第1当事者の死亡事故件数	18	22	16	14	19	12	19	20	16	15
構成率	23.4	23.4	23.9	19.2	31.1	21.8	26.0	40.8	27.6	36.6

※ 高齢ドライバーは、原付以上の運転者 ※ 構成率は、全人身事故及び全死者に占める割合をいう。

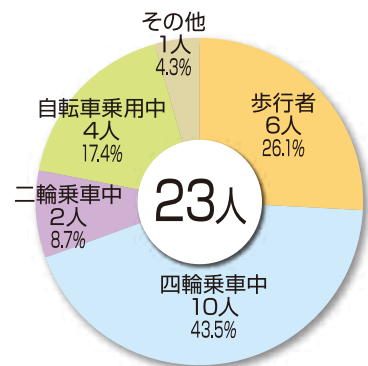
- 高齢者が関係する人身事故件数は前年より減少した。
- 高齢者死者は前年より14人減少し、構成率は6割を下回った。

## ■状態別（死者数）

令和7年中 全死者41人 うち高齢者死者23人(構成率56.1%)

区分	歩行者	四輪乗車中	二輪乗車中	自転車乗用中	その他	合計
死者数	6	10	2	4	1	23
うち薄暮～夜間	6	3	1	2	0	12
構成率	100.0	30.0	50.0	50.0	0.0	52.2

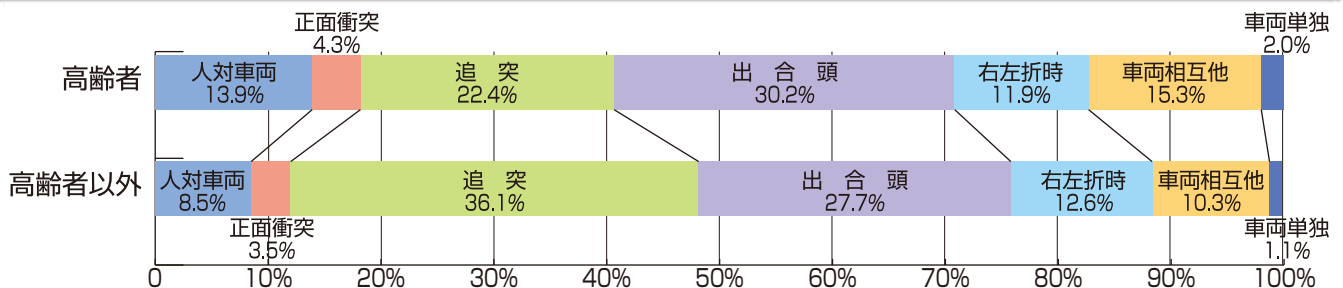
※ 構成率は、状態別死者数のうち薄暮～夜間の占める率をいう。  
(薄暮時間帯…日の入りの前後1時間)



### 事故防止のポイント

- 薄暮・夜間時間帯は、外出する際に、夜光反射材等を着用しましょう！

## ■高齢ドライバー（原付以上）が第1当事者となった事故件数（事故類型別）



- 高齢者以外では追突が最も多いが、高齢者では出合頭が最も多い。

# 市町村別発生状況

令和7年1月1日～令和7年12月31日

区分	件数			死者数			重傷者数			軽傷者数			負傷者計		
	令和7年	令和6年	増減数	令和7年	令和6年	増減数	令和7年	令和6年	増減数	令和7年	令和6年	増減数	令和7年	令和6年	増減数
岡山市	(9) 2,164	(9) 2,289	-125	9	20	-11	232	248	-16	(16) 2,252	(10) 2,281	(6) -29	(16) 2,484	(10) 2,529	(6) -45
北区	(9) 1,059	(9) 1,125	-66	6	9	-3	106	128	-22	(16) 1,105	(10) 1,116	(6) -11	(16) 1,211	(10) 1,244	(6) -33
中区	427	449	-22	1	2	-1	45	42	3	441	441	0	486	483	3
東区	191	190	1	0	4	-4	33	23	10	193	201	-8	226	224	2
南区	487	525	-38	2	5	-3	48	55	-7	513	523	-10	561	578	-17
倉敷市	(16) 1,328	(12) 1,404	(4) -76	(1) 9	14	(1) -5	(5) 156	(2) 191	(3) -35	(15) 1,365	(12) 1,413	(3) -48	(20) 1,521	(14) 1,604	(6) -83
津山市	(1) 185	167	(1) 18	(1) 2	1	(1) 1	32	19	13	181	164	17	213	183	30
玉野市	141	131	10	0	2	-2	16	23	-7	144	131	13	160	154	6
笠岡市	(3) 74	(4) 100	(-1) -26	(2) 2	0	(2) 2	11	(1) 12	(-1) -1	(1) 71	(6) 109	(-5) -38	(1) 82	(7) 121	(-6) -39
井原市	43	51	-8	0	1	-1	6	11	-5	45	42	3	51	53	-2
総社市	165	152	13	1	1	0	21	11	10	166	159	7	187	170	17
高梁市	27	32	-5	3	3	0	7	1	6	24	34	-10	31	35	-4
新見市	43	35	8	1	1	0	14	5	9	32	32	0	46	37	9
備前市	(7) 67	(6) 46	(1) 21	3	0	3	(1) 14	(4) 10	(-3) 4	(15) 78	(5) 49	(10) 29	(16) 92	(9) 59	(7) 33
瀬戸内市	59	46	13	0	5	-5	9	6	3	59	45	14	68	51	17
赤磐市	(6) 57	(8) 75	(-2) -18	0	2	-2	12	(1) 11	(-1) 1	(8) 52	(11) 82	(-3) -30	(8) 64	(12) 93	(-4) -29
真庭市	(2) 69	(3) 40	(-1) 29	2	4	-2	(1) 12	2	(1) 10	(1) 64	(4) 42	(-3) 22	(2) 76	(4) 44	(-2) 32
美作市	(1) 21	(1) 24	-3	1	2	-1	5	4	1	(1) 19	(1) 26	-7	(1) 24	(1) 30	-6
浅口市	(3) 65	(3) 67	-2	4	1	3	10	10	0	(6) 63	(7) 72	(-1) -9	(6) 73	(7) 82	(-1) -9
小計	(48) 4,508	(46) 4,659	(2) -151	(4) 37	57	(4) -20	(7) 557	(8) 564	(-1) -7	(63) 4,615	(56) 4,681	(7) -66	(70) 5,172	(64) 5,245	(6) -73
和気町	14	(2) 21	(-2) -7	0	1	-1	5	2	3	15	(2) 20	(-2) -5	20	(2) 22	(-2) -2
早島町	(1) 43	(1) 57	-14	0	0	0	4	7	-3	(2) 49	(1) 64	(1) -15	(2) 53	(1) 71	(1) -18
里庄町	26	35	-9	1	0	1	2	4	-2	28	36	-8	30	40	-10
矢掛町	16	24	-8	0	0	0	1	5	-4	15	22	-7	16	27	-11
新庄村	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
鏡野町	11	8	3	0	0	0	4	2	2	9	7	2	13	9	4
勝央町	14	15	-1	0	0	0	1	1	0	15	20	-5	16	21	-5
奈義町	2	10	-8	0	1	-1	0	2	-2	2	7	-5	2	9	-7
西粟倉村	(3) 5	0	(3) 5	0	0	0	0	0	0	(3) 7	0	(3) 7	(3) 7	0	(3) 7
久米南町	14	22	-8	0	0	0	4	5	-1	16	22	-6	20	27	-7
美咲町	19	11	8	0	1	-1	3	4	-1	17	7	10	20	11	9
吉備中央町	8	7	1	3	0	3	2	1	1	11	6	5	13	7	6
合計	(52) 4,681	(49) 4,869	(3) -188	(4) 41	60	(4) -19	(7) 584	(8) 597	(-1) -13	(68) 4,799	(59) 4,892	(9) -93	(75) 5,383	(67) 5,489	(8) -106

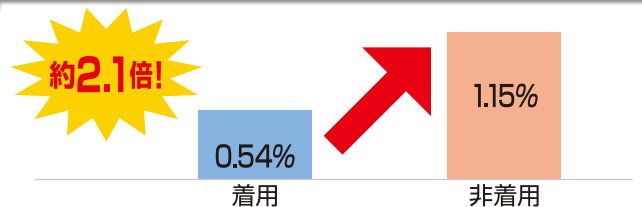
※( )内は、高速道路・自動車専用道路での事故における件数及び死傷者数を内数で示す。

## シートベルト致死率



※致死率=死者数÷(死者数+重傷者数+軽傷者数)×100  
 ※致死率については、10年間(平成28年から令和7年)のデータを基に算出。  
 ※シートベルトには、チャイルドシートを含む。

## ヘルメット致死率



※致死率=死者数÷(死者数+重傷者数+軽傷者数)×100  
 ※致死率については、10年間(平成28年から令和7年)のデータを基に算出。

## 自分の命、大切な家族の命を守るために

シートベルトは、命を守るために大変重要な装備です。シートベルトを着用することで、致死率を大きく減らすことができます。シートベルトは運転席、助手席だけでなく、後部座席でも着用する義務があります。ドライバーの方は、自分だけでなく、同乗者全員にシートベルトを着用させるように徹底しましょう。併せて、ヘルメットも、命を守るために大変重要です。直近10年間において、自転車乗用中の交通事故で亡くなった方のうち、4割以上の方が頭部を損傷しています。ヘルメットの着用によって、頭部の損傷を抑え、致死率を大きく減少させることができます。交通事故で大けがをして後悔することのないよう、自転車に乗る際は、必ずヘルメットを着用しましょう。

- 用語解説
- ・第1当事者……当該交通事故に関係した者のうち、過失が最も重い者をいい、過失の程度が同程度の場合には、被害が最も軽い者をいう。
  - ・第2当事者……当該交通事故に関係した者のうち、過失がより軽い者をいう。
  - ・関係当事者……第1当事者及び第2当事者をいう。